

キリストがすべて

東京基督教大学 大学報 Vol.177 December 2025



[TOPICS] 対談:心と靈を育む学び—「靈的形成」とTCUの全人格教育—



[TOPICS]

対談

心と靈を育む学び

—「靈的形成」とTCUの全人格教育—

大和 昌平

(東京基督教大学 特別教授)

齋藤 五十三

(東京基督教大学 教授)

+ 知的学びを超えて、靈の成長へ

齋藤：2021年度にTCUでは新カリキュラムが始まりました。その中に据えられているのが「クリスチャンライフフォーメーション(CLF)」です。教会実習やチャペル、コイノニア(小グループの交わり)、寮生活など、これまで別々に評価されてきた学生生活全体を統合し、靈的成長を包括的に支援していく取り組みです。の中でも、新たに設けられた「靈的形成」の授業は、学生が神との関係の中で自らを見つめ、成長していくことを目的としています。この授業導入には大和先生の強い思いがあったと伺っていますが、その背景をお聞かせください。

+ 「人生の宿題」としての靈的形成

大和：TCUの新しい教育基盤を考える中で、どうしても「靈的形成」という授業を入れたいという願いがありました。知的な学びだけでなく、信仰の土台となる部分をしっかり築くためです。欧米やアジアの神学校でも、靈的形成を中心に据えたカリキュラムへの転換が進んでおり、現代の神学教育における共通課題だと感じました。私自身、25年間の牧会の後に教員としてTCUに赴任した頃、リトリート(修養会)の場で再会した太田和功一先生^{*1}から「静まって神の前に立つ」ということを改めて教えられました。その時に強く思ったのです—これは自分の“人生の宿題”だと。

自分は仕事として牧師の働きはしてきたけれども、「1人の人間として、神の前でどう生きるのか」という問いを避けてきたように

思いました。だからこそ、学生たちには、自分自身と向き合う時間を持ってほしい。その思いからこの授業が生まれました。

+ 光と影をともに見つめる学び

齋藤：現代社会全体が、人間の「全体性」を見失っているように感じます。先生はその点をどのように課題として見ておられますか？

大和：まさに今の時代、人への信頼が揺らぎ、傷つきやすさや不信が蔓延しています。クリスチャンもまた、自分の「影」を見ようとしないまま、明るい部分だけで生きようとしてしまう。しかし、神の光が当たるところには必ず影ができるはずです。そこにも目を向けるべきです。

牧師や信徒リーダーであっても、自分の弱さや痛みと向き合わなければ、他者を支えることはできません。だからこそ、靈的形成では“人間のトータルな姿”を見つめることを大切にしています。

+ 教室で「気づき」を経験する

齋藤：靈的形成の授業を設計する際、特に重視された理念や方法は何でしょうか。

大和：まず、信仰者の靈的形成を促す良い書物を通して自分を見つめることです。片岡伸光先生^{*2}の『主の前に静まる』や、ヘンリ・ナウエン^{*3}の『今、ここに生きる』などを読み、毎週ディスカッションをします。牧会者自身の弱さ、傷をどう受け止めるか—これは知識ではなく「経験」を通してしか学べません。

また、授業では「コラージュ」などを使うこともあります。たとえば「今の私」をテーマに雑誌の写真などを用紙に切り貼りするのですが、言葉では表現できなかったことが形になると、学生たちは

*1 太田和功一(1945-)現クリスチャンライフ成長研究会シニアアドバイザー

*2 片岡伸光(1948-2002)元キリスト者学生会総主事、元シンガポール日本語教会牧師

*3 ヘンリ・ナウエン(1932-1996)オランダ出身の司祭、著作はカトリック・プロテstantを超えて世界的な影響を与えている。

*4 ディートリヒ・ボンヘッファー(1906-1945)ナチス体制に抵抗したドイツのプロテstant牧師・神学者

profile 大和 昌平 (東京基督教大学 特別教授)

教 会：福音交友会 京都聖書教会

主な学歴：関西大学政治学科、東京基督教神学校、

佛教大学大学院仏教学研究科博士課程

専門分野：実践神学、東洋思想への弁証



profile 齋藤 五十三 (東京基督教大学 教授)

教 会:日本同盟基督教団 新船橋キリスト教会
主な学歴:法政大学法学院法律学科、東京基督神学校、
カルヴァン神学校(組織神学、Th.M.)、
アムステルダム・フリー大学神学院教義学専攻(Ph.D)
専門分野:組織神学、教理教育、教理史

お互いにポジティブなコメントを返し合い、新しい自分に出会ったりします。そこにリラックスした“分かち合いの場”が生まれます。

+ 共同体の中で変えられていく

齋藤:学生たちの中に、どのような変化や成長を感じますか?

大和:「自分に向き合う」ことは怖さを伴います。しかし、神の赦しのもとで自分を受け止めることができると、人格の成熟が始まります。靈的形成の授業は、学生がそのきっかけを得る場です。すぐに結果が見えなくても、神の時にふさわしい実が結ばれていきます。その信頼のもとに進めています。

+ CLFとつながる「靈的形成」

齋藤:クリスチャンライフフォーメーション(CLF)では、学生が自らの成長を振り返り、自己評価を行います。「靈的形成」とCLFは理念的にもつながっているように思います。

大和:そう思います。自分の生活を見直し、仲間と分かち合う—それがCLFの中でも大切な要素です。特にコイノニアの時間は、まさに靈的形成の実践の場です。学びが生活へつながり、共同体の中で互いに励まし合う。TCU全体が「靈的形成の場」となることを願っています。

齋藤:CLFは、単なる評価制度ではなく、学生が自分自身を見つめ、祈りのうちに成長を確認する機会ですね。教員が点数をつけるのではなく、学生が自らの歩みを神の前で振り返る—その姿勢こそ、TCUの教育理念を体現していると感じます。

大和:はい。教師はメンターとして伴走する存在です。学生の内面を見守り、祈り、共に成長していく。普通の大学にはないTCUならではの教育の形だと思います。



Isomi Saito

+ 「メンター」としての大学

齋藤:TCUの教育は、教える・教えられる関係を超えて、教員が学生より人生の少し先を歩む者として学生と対話することを重んじていますね。

大和:まさに「メンター」です。学生1人ひとりのポートフォリオを見ながら、対話を通して時間をかけて成長を支える。TCUはそのようなメンタリングの共同体でありたいと思っています。特にコロナ禍を経て生まれたコイノニアの文化は、まさにその実例です。互いに祈り、励まし合う中で共同体が形成されていく。TCUの教育の核といってよいでしょう。

+ 神の前に自分を受け止める人を送り出す

齋藤:最後に、靈的形成・CLFを通して、TCUがどのような人を送り出していきたいか、メッセージをお願いします。

大和:牧師になる人も、社会で働く人も、自分の人生を神の前で喜びつつ生きてほしい。そのためには、心の奥にある「ふたをしてきた部分」とも向き合うことが必要です。キリストの赦しの光の中で自分を受け止められる人—それが本当の意味で強い人だと思います。そうした人は、他者の痛みを理解し、共に歩むことができます。ナウエンが世界に影響を与えたのは、自分の弱さを隠さなかったからです。TCUもまた、主のもとで「弱さを受け入れる共同体」でありたいと思います。

齋藤:十字架の前に立ち、赦しの恵みを経験した者が、人に向かって自由に仕えることができる—ポンヘッファー⁴の言葉を思い出します。TCUが、キリストの平和をこの世界にもたらす人を送り出す場であることを改めて感じました。

大和:知的に優れた人材を育てるだけでなく、キリストに似た人格を共同体の中で育む大学として、これからも歩みたいですね。





Blessings at TCU

神学・国際教養学科 1年次入学 Juyeong Jung

It has already been a month since I came to Japan, and studying at TCU has truly been a blessing. I have met many wonderful people who share the same faith in Christ, and it has been a joy to join an international community of students from different countries. Coming from a less diverse background, I find it enriching to learn about various cultures while also experiencing Japanese language and culture every day.

Another aspect I appreciate about TCU is its small classes. Even before I came, I knew they usually consist of few students, which allows closer interaction with professors. This reminded me of my high school experience and provides a learning environment that is often hard to find in larger classrooms.

I look forward to growing spiritually and intellectually in this supportive Christian community. I am excited to see how God will work in my life at TCU.

TCUでの恵み

TCUでの学びが始まって1か月。信仰を共にする仲間や多国籍な学生との出会いを通して、日本語や日本文化に触れる喜びを日々感じています。少人数の授業は先生との距離も近く、安心して学べる環境です。恵まれたクリスチャン共同体の中で、これからも靈的・知的な成長を楽しみにしています。

Does “Tangible Love” work

総合神学科2年次編入 Chapman Crusoe James

The letters ‘TCU’ didn’t mean anything to me before arriving here. I didn’t visit the campus, research the school’s values, and didn’t truly know a single person before walking in the gates. Without fully realizing it, this combination of letters, ‘TCU,’ very quickly started to pick up immense meaning in my mind.

Upon reflection, I realize that the immense cultural gap is an essential part of why this community is so special. It is evident everywhere you look, breeding complications I couldn’t have possibly foreseen before living here. And yet, what you can feel even more than this gap, are the countless efforts taken every day to bridge it. Meals spent stumbling over second languages, hours spent helping with immigration forms, the genuine smile that every face wears; these actions speak louder than words, a tangible love. Now, when the letters ‘TCU’ fall on my ears, the impression of this tangible love is never far behind.

「行いをともなう愛」が働く場所

来日する前、TCUはただの文字の並びにすぎませんでした。しかし実際にここで学び始めてから、文化の違いに戸惑う一方、そのギャップを埋めようとする多くの温かい行為に触れました。言葉に不慣れな中で共に食事をする時間、手続きへのサポート、笑顔での励まし——それらが「行いをともなう愛」として心に残っています。今やTCUという言葉を聞くと、真実の愛に支えられた共同体を思い起します。





■ Eager for the Journey Ahead

総合神学科グローバル・スタディーズ専攻3年次編入 Freeman, Alice Nohn

I am from Liberia, West Africa.

The first thing that drew me to TCU was its diverse and welcoming community. Additionally, the Global Studies program has been an inspiring opportunity to deepen my knowledge and broaden my perspective on societal issues. Since beginning my studies here, I have been fortunate to explore global challenges, develop critical thinking, and learn alongside students from different backgrounds. Receiving support from my professors and fellow international students has encouraged me to grow academically and personally.

I am excited to continue this journey, enhance my understanding of global issues, and "stand in the gap" while building lifelong friendships within the TCU community.

これからの旅路に向かって

私は西アフリカのリベリアからTCUに入学しました。TCUに惹かれた理由の一つは、多様で温かいコミュニティです。グローバル・スタディーズ専攻を通して社会課題への理解を深め、異なる背景を持つ学生と共に学ぶ機会が与えられています。また、先生や留学生仲間に支えられながら成長を実感しています。世界の課題に向き合い、生涯の友を得、「Stand in the Gap」に生きる旅を、ここTCUで続けていきたいです。

■ "TCU: Culture, Friends, Faith"

短期留学生 Shortridge Emilyn Joy

At my home college, Calvin University, I studied linguistics, Asian studies, and ministry leadership, and it was the Japanese classes I took for my major that first inspired me to come to Japan myself. I chose TCU because I wanted to make friends with Japanese students and learn more about the culture here, and I also wanted to learn more about Christianity and the worldviews of the people who live in Japan. I am especially excited to grow from my relationships here and learn more about ministries in Japan to see where God may be leading me to serve after graduation. I'm so grateful God has made it possible for me to come study in Japan, and that the TCU community has been such a wonderful place to learn so far. Praise be to the Creator of our wide world!

「TCUで出会う文化・友・信仰」

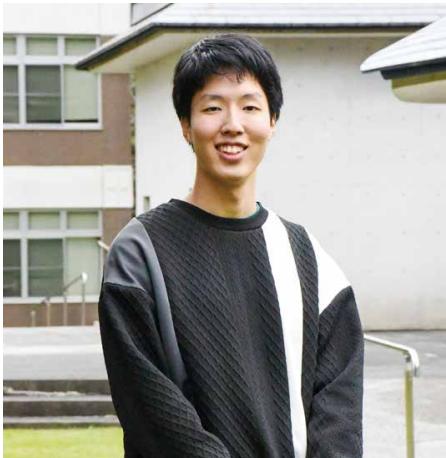
母校のカルヴァン大学で日本語を学んだことがきっかけで来日しました。TCUを選んだのは、日本の学生と出会い、文化を学ぶとともに、日本に生きる人々の信仰や世界観に触れたいと願ったからです。友との交わりを通して成長し、日本での宣教の可能性を探りながら将来の導きを祈り求めています。日本で学ぶ機会とTCUという素晴らしい共同体に心から感謝しています。



2025 夏の報告



夏期伝道報告



大学院修士課程
教会教職コース1年
萩原 歩

夏期伝道報告① チームリーダーとして参加して

この度、私は夏期伝道でトリニティチャーチ富山にチームのリーダーとして派遣されました。主な活動内容は主日礼拝での奉仕、そして平日を開かれているインターナショナルスクールでの奉仕でした。主日礼拝や様々なプログラムが日英両方で行われている非常にグローバルな教会でした。今回リーダーとして参加して、自身の配慮の足りなさに気づかされました。私はあまり視野が広くなく、細やかな配慮ができていないことがあります。前から気を付けていたのですが、いざチームとして活動をするときに改めてそのことを知ることができ学びになりました。

また、自分の弱さだけでなく、多くの恵みによって支えられていることに気づくことができました。特にスクールの奉仕が忙しくなるタイミングでは、必要な助け手が与えられ、無理なく自分たちの全力をもって奉仕に臨むことができました。

これらの背後には、多くのサポートがあったことを強く感じています。いつも祈りと献金をもって支えてください、心から感謝いたします。



神学・国際教養学科1年
伊東 香穂

夏期伝道報告② 初めての夏期伝道に参加して

主の御名を賛美いたします。

初めて参加した夏期伝道旅行では、牛久福音キリスト教会に遣わされました。派遣されたメンバーは、礼拝や祈祷会での説教、特別賛美、証しなどの奉仕に加えて、教会に集う地域の子どもたちに福音を伝えることを目的として、子ども集会や公園伝道を行いました。

慣れない環境や体力を使う活動に疲れ果ててしまうこともありましたが、主の癒しの中で、主に信頼して歩むことの喜びを改めて実感することができました。準備した活動を通して、教会や神様という存在に興味をもってくれた子どもがいたことも、チームにとって大きな励ましとなりました。また祈りのメンバーは夏期伝道旅行中だけでなく、準備の段階から祈りをもってチームを支えてくださいました。夏期伝道旅行チームを受け入れてくださった諸教会をはじめ、働きを覚え、祈りと献金をもって支えてくださった方々に心から感謝いたします。そして何よりも、この美しく尊い働きのために私たちの足を用いてくださった主に、すべての栄光をお返しいたします。

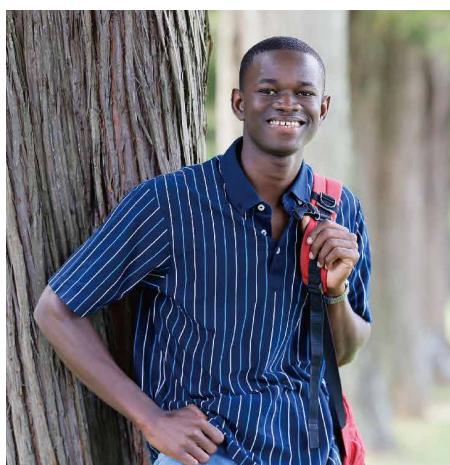




大学院修士課程
教会教職コース1年
吉澤 和也

大学院・神学インターーン報告

今年度のインターーンは、日本基督教団仙台宮城野教会で3週間学ばせていただきました。齋藤篤先生はエホバの証人の元信者であり、その経験を生かしてカルト問題対策の働きを続けておられます。昨年度は1週間だけ異端・カルト問題の基礎を学ばせていただきましたが、今回はそれらを踏まえてより実践的な形で牧師の働きに関わらせていただきました。期間中、実際にカルト問題対策相談会やオンライン相談会に同席させていただき、牧師や医師、福祉士など、職種を超えた専門家の方々が協力しながら相談者に寄り添う姿に深い印象を受けました。また、説教奉仕、地域の祭りや中高生キャンプ、ボランティア活動など、牧師の幅広い働きにも参加させていただきました。先生からは、常に最新情報を集め、人とのつながりを大切にし、心のバランスを保つことの重要性を教えられました。この経験と学びを生かしつつ、仲間や自分の時間も大切にしていきたいと思います。



総合神学科
神学教養専攻4年
Bangura, John M' baaday

白浜レスキューネットワークでのインターーン報告

TCUでの神学教育を終えるにあたり、日本の教会が「社会や地域と関わり、奉仕する」という聖書の使命をどのように実践しているのかに関心を抱き、人命救済・自殺予防・自立支援の働きをしている白浜レスキューネットワーク（和歌山県白浜町）でのインターーンに参加しました。二週間の活動では、保護された人々を雇用する「まちなかキッチン」での弁当配達や、地域の子どもも向け英会話クラスの補助、高校生向け家庭学習プログラムでの授業支援、教会での礼拝準備など、様々な貴重な経験をすることができました。実際に手を動かし、人々と関わる中で学びと気づきが深まり、私にとってかけがえのない実践的な学びの場となりました。



総合神学科
グローバル・スタディーズ専攻3年
金 真瑞

ハンガーゼロでのインターーン報告

この夏、日本国際飢餓対策機構（ハンガーゼロ）大阪事務所でインターーンシップをさせていただきました。将来NGO団体で働きたいと考えている私にとって、とても貴重な体験でした。今回は教会訪問、チャイルドサポートの作業、お話を伺うことができました。ハンガーゼロは一時的な支援ではなく、現地の人々が自立できるようにする持続可能な支援を行っています。神様が、一人ひとりに必要な知恵と能力を与えてくださったからこそ、現地の人々も自立することができると信じています。この地上で暮らしている私たちの使命は、神の御国が私たちを通して地にも実現することです。神の国実現のために、それぞれの使命を持って働いておられる大阪事務所の方々の姿を見ることができました。肉体的な飢餓だけではなく、靈的な飢餓も解決するための働きを見て励されました。ここで学び体験したことを大切にし、将来は私も、肉体的、靈的な問題解決に向けて働く一員となりたいです。



夏期卒業礼拝報告 *Report 1*

7月9日に夏期卒業礼拝が執り行われ、英語トラックの学生5名が卒業しました。2001年にスタートしたACTS-ES(Asian Christian Theological Studies for English Speakers)という英語で授業を行い単位を授与するコースを発展的に解消し、総合神学科の中で日本語トラックと英語トラック両方の学生が同じ専攻の中で学ぶようになった最初の卒業生でした。

言語と文化の壁を越えて、一つの共同体で学び生活をした5人は、日本と母国でそれぞれの召命に従って遣わされていきました。

【卒業生内訳】

Global Studies Major 2名

Theological Studies Major 3名



■ 社会福祉法人 泉の園
風の谷保育園との協定締結 *Report 3*

社会福祉法人泉の園 風の谷こども園（千葉県市川市 川副孝夫理事長）と東京基督教大学とは、広範な分野で知的・人的・物質的資源を活用して相互に協力することにより、人財の育成と地域と国際社会への貢献に寄与することを目的とする包括的連携協定を締結しました。

これまで学生サークルが定期的に同園で活動をするなどの交流がありました。今回の協定を通じてより一層の連携を図ってまいります。

また、川副理事長が撮った写真を元に、吉野有希子氏が描いた絵画『新しい命』が寄贈され、大学院棟1階に飾られました。



教員著書紹介

『戦時下の教会を知ろう』 *Report 2*

山口陽一教授の『戦時下の教会を知ろう』は、日本の教会史における痛みと問いを、私たちに改めて突きつける一冊です。戦時下、国家の圧力にさらされた教会が、どのように戦争協力へと傾き、また信仰を守ろうと模索したのか——その実際が、平易な言葉と豊かな資料で描かれています。読み進めるうちに、教会が時代に流される危うさと、なお主に従おうとした信仰者の姿が浮かび上がり、私たち自身の歩みを照らします。TCUで学んだ卒業生にとっては、学びの原点を思い起こし、現代に生きる教会の使命を考える良き手がかりとなるでしょう。単なる歴史の紹介にとどまらず、今を生きるクリスチヤンへの励ましと警鐘を響かせる書です。



山口陽一

東京基督教大学特別教授・前学長、日本同盟基督教団市川福音キリスト教会牧師代務者。専門分野は日本キリスト教史、プロテスタント史全般、実践神学、説教学。金沢大学卒、東京基督教神学校卒、立教大学大学院（修士）。



■ 認知症サポーター養成講座 *Report 4*

9月18日に「キリスト教福祉IV」（担当：菅野綾 講師）の授業内で、認知症サポーター養成講座が行われました。印西市印西南部地域包括支援センターの方が講師となり、認知症に関する基礎知識や、認知症の人やその家族への支援のあり方を学びました。

当日は、授業を履修している学生に加え、教職員や家族寮に住む学生の家族にも開かれた講義となり、グループディスカッションを交えながら理解を深めました。受講を終えた学生は、認知症サポーターとなります。

＜認知症サポーターとは？＞

認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族を温かく見守り、自分にできる範囲で支援する「応援者」です。



シオン祭実行委員会 委員長 ユース・スタディーズ専攻4年 金子りさき

今年は10月13日（月・祝）にシオン祭が開催されました！

テーマ聖句は、ヨハネ15章13節の「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていないません。」、そしてテーマは「For you」です。

テーマには、周りの声や視線に惑わされやすい現代だからこそ、あなたのために向けられているイエス様の十字架の愛を伝えたい、という思いが込められています。

ゲストには長沢崇史先生をお招きし、当団には約900人近くの方々が来てくださいました。曇り時々雨というはっきりしない天候の中で、急なプログラム変更もありましたが、ゲストコンサート中は雨からも守られて、広い中庭で賛美とメッセージの時を持つことができました。

来場者の中には初めて御言葉に触れる方や、地域の子どもたちも多く、御言葉が真っ直ぐ届いていく景色を通して、改めて主に仕える喜びを深く感じました。

皆様のお祈りとサポートに、心から感謝いたします。



TCU支援会

〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目301-5
TEL: 0476-46-1131 FAX: 0476-46-1405 E-mail: shien@tci.ac.jp

TCU支援プロジェクト200/500へのご協力ありがとうございました

2024年秋からお願いしておりました「TCU支援プロジェクト200/500」は、2025年9月末で一区切りし、117の個人・団体の皆様から367万9千円の継続支援をいただきました。継続的なご支援をいただくことは、将来に向けて大学を運営するための大きな力となります。心から感謝申し上げます。

200/500プロジェクト 集計結果

期間：2024年9月～2025年9月30日（9月末）（1年間）

目標
増額または新規 **200**名：**117**名 (59%)

目標
年間相当増額 **500**万円：**3,679,000**円 (74%)

12月末まで期間を延長して募集します！

引き続き、12月末まで期間を延長し募集いたします。また、本プロジェクトでご寄付いただいた金額と同額を寄付するマッチング寄付の申し出が、TCUの使命に賛同した米国のキリスト教財団からありました。ぜひさらなるご支援をよろしくお願ひいたします。

200/500プロジェクト、
マッチング寄付の
詳細・申し込みはこちら



Sketch-1

「ラーメン！」



TCUにはラーメン好きの人が多く、毎日ラーメン屋さんに出発する車を見かけます^^
男子寮ではラーメンに行くための声かけをする専用のグループLINEもあるんです。笑



夜中に行くことも
多いけど、寮の門限
は守ってますすすす！



総合神学科2年 福田 優人

Sketch-2

「アイスウォーク！」

毎週金曜日の夜、みんなで一緒に近くのスーパーまで歩き、
アイスを片手に交わる「アイスウォーク」。歩く時間も、アイス
を味わう時間も、心がほどける大切なひとときです。

一週間の疲れもアイスと
おしゃべりでリセット！
金曜の夜がちょっと特別になります。



神学教養専攻3年 上園 実祈

TCU Nightscape Sketch



Sketch-3

「日韓祈祷会！」



毎週火曜日の19時から、学内に設営されている温かいログハウス（バルナバホール）
で日韓祈祷会を行なっています！韓国の
ゲームや賛美、そして日本と韓国のために
お互いのために
祈りあう時間を
持っています。



ユース・スタディーズ専攻4年 金子 りさき

学びやバイトなど忙い毎日
の中で、心を休めて日韓祈
祷会で仲間と一緒に過ごす
時間は大切な休息の時です。

Sketch-4

サークル活動（バレーボールサークル）

金曜日の夜は…バレーボールサークル!!学年や教職員の枠を超えて、楽しく体を動かして交わりを持っています。年に2回バレーボール大会もあり、白熱した戦いが行われるのも魅力の一つです♪

初心者でも大丈夫！普段話すことの無い人とバレーボールを通して、自然に会話できるのも魅力です！



グローバル・スタディーズ専攻3年 田丸 乃彩



TCU生の9割が住んでいる寮。そして、寮生活の醍醐味といえば「夜」と言っても過言ではありません。そこで今回は、学生広報スタッフ6人がTCU生の夜の姿をレポートします！題して「TCU夜景スケッチ」。どんな夜景が描かれているでしょうか？

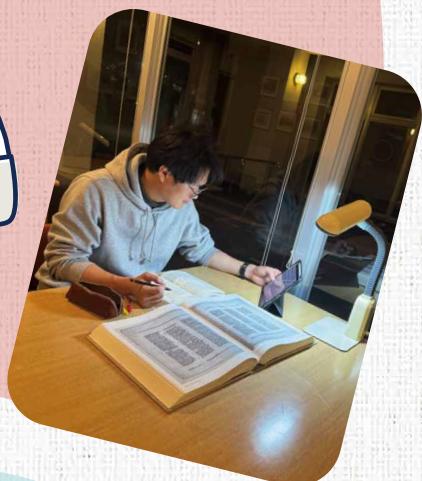
Sketch-5

夜の勉強！

深まっていく学びに飛び込み、与えられる奉仕の機会を生かすために、夜の時間は学生たちに有意義に用いられています。



大学院1年 崔 種碩



Sketch-6

委員会活動

（シオン祭準備委員会）

委員長が常にみんなを励まして、シオン祭に向けて何度も集まる企画をしてくれたのがリーダーズの仲を深めてくれました笑 少しでも福音の種が蒔かれていますように。



教会教職専攻3年 菊井 雄斗

シオン祭リーダーズは約8ヶ月のミーティングを経て当日に向けて準備と祈りを持って備えてきました。この写真は最後のミーティングが終わって前日にみんなでご飯を食べた写真です。



入試情報

■神学部春期入学・編入学

一般選抜

第Ⅰ期

出願期間：2026年 1月 5日(月)～1月15日(木)必着
試験期日：2026年 2月 7日(土)

第Ⅱ期

出願期間：2026年 2月 2日(月)～2月19日(金)必着
試験期日：2026年 3月 9日(月)

■神学部秋期入学・編入学

Fall Late Admission I (海外・国内在住者対象)

出願期間：2026年 1月31日(土)～4月6日(月)
書類選考・ビデオ/対面面接：
2026年 4月7日(火)～5月1日(金)

Fall Late Admission II (国内在住者対象)

出願期間：2026年 4月7日(火)～6月12日(金)
書類選考・ビデオ/対面面接：
2026年 6月15日(月)～6月26日(金)

■大学院神学研究科

修士課程 一般 (第二期)

出願期間：2026年 1月 5日(月)～1月13日(火)
試験期日：2026年 1月30日(金) または 31日(土)
出願者数に応じていずれかに実施

※博士課程は出願期間が終了しました。

資料請求は
QRコードから



お問い合わせ

アドミッションセンター
TEL 0476-46-1131
E-mail nyushika@tci.ac.jp

TCUアカデミーを開催！

東京オンヌリキリスト教会との共催で、東京都新宿区にある同教会を会場にした特別授業を行います。TCUの学びを都心で受けてみませんか？

2月28日(土)1:30～3:30 篠原基章「『信徒』再考」

3月28日(土)1:30～3:30 篠原基章「『信徒』の召命」

4月25日(土)1:30～3:30 山口陽一「キリストの歴史」

5月23日(土)1:30～3:30 山口陽一「プロテスタントの歴史」

会場：東京オンヌリキリスト教会(東京都新宿区北新宿3丁目39-7)

受講料：2,000円/1講義(TCU支援会員 1,800円)

対象：どなたでも

お申し込みは
QRコードから



申込・お問い合わせ

企画広報部

TEL 0476-46-1131

E-mail tcu_academy@tci.ac.jp

2026年度オープンキャンパス日程

オープンキャンパス2026

「つながる。聖書・世界・私。」

一泊型

4月24日(金)～25日(土)

教会教職
オンライン

6月12日(金)

6月6日(土) 7月25日(土) 8月22日(土)

参加特典

定期的に教会に通う30歳未満の方で、当日の全プログラムに参加した方には交通費の補助を差し上げます。詳細はウェブサイトにて順次公開します。

お申し込みは
QRコードから



お問い合わせ

オープンキャンパス担当

TEL 0476-46-1131

E-mail nyushika@tci.ac.jp

春期卒業礼拝

下記の通り卒業礼拝を執り行います。

お問い合わせ

日時：2026年3月6日(金) 13:30～15:00 総務部

場所：本学チャペル

TEL.0476-46-1131